

## F4スカラシップドライバー募集

F4協会では2015年度JAF地方選手権F4レースに参加する将来を期待される若手ドライバー支援を2015年度も行なう。これは日本F4協会評議会が選定したスカラシップドライバーに、レースで使用するタイヤの無償提供を行なうもの。スカラシップを希望するドライバーはぜひエントリーを。申請書のダウンロード、送付先、詳しい支援内容などはF4協会HP(www.f4k.co.jp)で確認しよう。

- 募集期間：2015年1月9日（書類必回）
- 応募資格：2015年JAF地方選手権シリーズF4東西シリーズいずれかにフル参戦可能で、2015年1月1日現在で25歳未満のドライバー
- 応募方法：[2015年度日本F4協会スカラシップ申請書]に自己PRのできるものを添え、F4協会事務局まで郵送のこと
- 支援内容：最優秀スカラシップドライバー1名に東西シリーズのいずれかと日本一艇に2セット／1レースのタイヤを無償支援  
次点優秀スカラシップドライバーを東西シリーズで各1名を選出し。東西シリーズのいずれかと日本一艇に1セット／1レースのタイヤを無償支援



フォーミュラ4シングルシーター選手権スカラシップを頂いた3名の顔ぶれ。2015年は聯合標榜といつ目標をめざしてもらいたい。

西日本シリーズ第3戦と第6戦で転倒事故で組合さ立候補者を出したアキラクラスの植田(左)、ミコト(右)の2選手の底力を見せつけた。

**学生メカニックたちも活躍**

近年は自動車専門校の生徒をメカニックとして起用し活動するケースが増えているが、その代表ともいえるのが、NATSと日本自動車大学校だ。先生と呼ばれる金井亮忠は文字どおり同校の講師で、10年の東日本チャンピオン。13年からオリジナルマシンNATS 001を作成、いまだ熟成過程にあるため時にトラブルを抱えることもあるが、生徒メカニックたちの常に規律正しく懸命な作業ぶりには好感が持てる。何より金井が全面の信頼を置いているのが強く感じられるのだ。

またシリーズ後半には東京工業自動車大学校も参戦。1850ccエンジンを使用しているが、2台をしっかりと完走させたことで、生徒メカニックたちにも達成感はあったのではないだろうか。今後はより積極的な活動を期待したい。

15年のスケジュールだが、両シリーズとも1戦減の全5戦での開催が予定され好評だったダブルヘッダーがいずれも1大会ずつ組まれている。特別戦として行なわれる日本一決定戦は鈴鹿クラブマンレース最終戦と併せての開催となる。またF4協会の賞金は入門カテゴリとしましては高額なことで知られているが、15年からはシースン賞金がレースごとの提供に変更される模様だ。そして、F4指定のレースタイヤは、2014年度と同様のダンロップタイヤになるようだ。

も3戦中2戦で表彰台に立つた。「F4でもいかに絶対に勝つてやる」と胸に強く誓つており、来年の活躍も大いに期待できる。



## WEST SERIES

■開幕戦を制したのはスポット参戦の牧野。第2戦はトラブルを抱えながらも完走。■植田同様、アルミミクランで奮闘した久保は第2戦で新合2位表彰台登壇を果たした。■優勝Aライを得て2014年にデビューした浅原は第4戦ではJAF選手権で1位(総合3位)、シリーズ2位に輝いた。■MC090を走る朝日は第4戦Cクラスで3位を獲得。



# 2014 FORMULA 4 CHAMPIONSHIP PADDOCK NEWS

才能と技術を育てるステップアップカテゴリー

Vol.5

## [東西シリーズ総集編]

# PLAY BACK 2015 SEASON

2014年のF4は東西シリーズとともにチャンピオンが圧倒的な強さを見せていた。東日本シリーズでは三笠雄一が5勝、西日本シリーズでは平木湧也が4勝をマーク。しかし、ひと口に強さと言つても、三笠はレースごとに磨き上げていったのに対し、平木はレースごとに伸びがぶつかり合うレースを見たかったものだが、同じグリッドに並んだのは東日本シリーズ第6戦のみで、しかも平木は最後尾スタートだったため、直接対決は実現しなかつたのは残念だった。22台を抜きに抜きまくって平木は6位まで上がってきたから、なおさらその思いは強くなれる。いや、我々以上に三笠がそう感じているのではないかだろうか。

そんな三笠が唯一勝てなかつた東日本シリーズ第2戦だが、意外にもこのレースが最も印象に残るレースだという。「Pが獲れたレースは確実に優勝し、スタートもきっちり決めて誰も前に行かせなかつたんですけど、負けたレースだけは予選4番手から、あの抜きにくいSUGOで2台抜いてきたので、自分でも自信になりました」と三笠。その言葉からシリーズを限りなく百点満点に等しく戦つてきただことがうかがえる。

さてF4にはシリーズごとの表彰だけ

でなく、すべてのレースを対象とした「グランプリチャンピオン」の表彰も行なわれる。総合では三笠の受賞が濃厚である一方で、アルミミクラン使用者を対象とするAクラスは植田正幸の独走状態にある。両シリーズとも4戦ずつ出場し、クラス優勝は7回。それでも「総合の表彰台に立ちたい」と絶えず語っていたものが、東西両シリーズ第3戦と第6戦でそれを実現。併せて出場したGT300でも後半戦に2度も入賞を果たしているだけに、壁を突き抜けた印象は確実にあります。勢いある若手に交じつて、総合でもジェントルマンドライバーの最上位に立つことは間違いない。

東西両シリーズに参戦した加藤智は鈴鹿でフォーミュラエンジニアから始め、後にスーザーFJにステップアップ。いずれもチャンピオンを獲得してきた実力派であり、若手と切磋琢磨し、自身の能力を高めてきた魅力的なドライバーのひとりだ。2年目となる14年は東日本シリーズでは連戦のもとで表彰台に立ち続け、スポット参戦の西日本シリーズで

## EAST SERIES



■SUGO以外を制して王座を奪った三笠。■NATS学生メカを率いて奮闘した金井。東日本は苦戦したが、西日本最終戦では2位表彰台を得た。■前半2戦に参戦した山口は途中からF3に活動の場を移し、F4で切磋琢磨した経験を活かしてクラス優勝を果たした。■三笠を追いかけて山田と丘松井(右)も東日本を盛り上げた。